

# 樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査 (令和2年度～4年度)

## 1 調査目的

生垣をつくる場合、その樹種や植栽環境によって、植栽後の生育や外観は大きく異なりますので、その環境や目的、好みに応じた樹種を選ぶ必要があります。

一般的に、生垣は、視線の遮蔽、侵入防止、境界の明示、寒風・騒音防止などを目的につくられることが多いですが、花や葉色、香りなどを楽しむ観賞対象としての効果も期待できます。

そこで、枝葉の密度が高く遮蔽性が高いことや、強度の刈込に耐えて萌芽しやすいなど、生垣に適すると思われる樹種を植栽して、生垣用樹としての特性を明らかにし、樹種選定の参考となる資料を作成するために調査を行っています。

## 2 調査内容

### (1) 樹種の選定 (目標樹高)

生垣をつくる主な目的・効果により、①～③に区分し全体で11樹種を選定しました。

#### ① 主に遮蔽性や侵入防止の効果が期待できる樹種

イヌマキ (2.0m)、スカイロケット (2.0m)、キャラボク (1.0m)

#### ② 花や香り、葉色の変化などを楽しめる樹種

トキワマンサク (2.0m)、キンモクセイ (2.0m)、ベニカナメ (レッドロビン) (2.0m)  
モッコウバラ (1.5m)、キンマサキ (1.0m)

#### ③ おしゃれで印象的な外観が期待できる樹種

ナンテン (1.5m)、ドウダンツツジ (1.0m)、フィリフェラオーレア (0.4m)

▲ スカイロケットの樹間に植栽

### (2) 植栽方法

延長3mの区画を10区画設け、上記樹種を植栽して生垣をつくり必要に応じ支柱を設ける。(調査地の全景は写真のとおり)



### (3) 調査内容

- ・コスト：苗木の購入等に要する経費
- ・遮蔽率：各樹種の生垣を定点撮影し、樹木により背景が遮蔽される割合を算出する。
- ・外観の推移：生育状況、開花、葉色、樹勢、病虫害の発生等を観察・記録する。
- ・育成管理の難易度：樹種の特性に依じて必要な管理を行い、作業量を記録する。
- ・生垣の評価：コスト、遮蔽性、病虫害、見栄え、維持管理、耐性（西日、乾燥等）等の項目について、各樹種の生垣を評価する。